

飯田市観光振興ビジョン(案)についての意見公募結果

2015.3.12/13

産業建設委員会協議会資料

No.5-③

平成27年3月10日 飯田市産業経済部 観光課

- 1 意見を公募した期間
平成27年1月15日(木)から平成27年2月13日(金)まで
- 2 意見公募の対象
飯田市観光振興ビジョン(案)
- 3 意見公募の方法
飯田市ウェブサイトに掲載するとともに、観光課、各自治振興センター、市役所本庁2階行政資料コーナー、りんご庁舎市民証明コーナー、飯田市公民館並びに橋北、橋南、羽場、丸山及び東野公民館の窓口において公表し、書面又は電子メール等で意見を公募しました。
- 4 提出者・意見数
6人 20件
- 5 パブリックコメントに寄せられた意見とそれに対する市の考え方

No.	提出された意見	意見に対する市の考え方
1	<p>5ページ 背景について(明朝体文字が原案) (4) 山岳や農山村利用中心の観光プログラム以外の新たな地域資源を活用したプログラムづくりが進んでいないこと</p> <p>(4)に以下追記 * 海沿いの観光で云えばリアス、砂丘、遠浅の砂浜を謳い誘客している。飯田市は特有の天竜川を挟んで東山・西山がある。高低差豊かな非常に特異な地形であり、魅力ある山、川、谷、大天竜川沿いロケーションを演出した、観光開発はされていない。</p>	<p>ここでは、観光地利用者数・観光消費額の減少傾向となっている背景として、5つ理由を挙げたもので、山岳や農山村利用中心で、新たな観光プログラムづくりが進んでいないことを挙げていますので、地形に関する記述を追記せず、原案のままとします。</p> <p>ご提案は、この地域の天竜川を挟んで東西にできた段丘から里山・山岳までつながる地形と、その標高差による景観を活かせる可能性についてだと思われる。</p> <p>この点については、8ページ 今後予想される変化として <飯田市の新たな魅力発見・創造>「いまだ活用が進んでいない山川、そして清涼な空間の自然資源の利活用はユニークな観光体験を提供する場にもなります。」として記述しています。</p>
2	<p>5ページ 課題1(明朝体文字が原案) (前略) 一方、飯田市の総人口は減少傾向にあり、定住人口の減少が目立つ中山間地域における交流人口の増加は重要となっています。ニューツーリズムの推進による国内外の観光客の増加、中山間地域の特性を活かした交流事業を展開することで、地域を活性化させる必要があります。</p> <p>2行目 ニューツーリズムの推進に * 以下 挿入 * それを更に思考UP深堀させた、造語<リピート・シャトル・ニューツーリズム>で 新たな価値の創造を編み出し、人材育成、地域活性、につなげる。</p>	<p>ご提案の造語<リピート・シャトル・ニューツーリズム>については、この言葉の意味が一般の方に理解できる普及した用語ではないので、ここでは記述せず、原案のままとします。</p> <p>ただし、この言葉の意味するものは、「リニア中央新幹線の移動時間短縮効果により、最初から複数回の訪問が期待でき、更に滞在型の二地域居住または定住に結びつく可能性を持つ、地域資源と結びついたニューツーリズム」とのことですので、体験プログラムや観光プランづくりを検討する際の参考にさせていただきます。</p>

No.	提出された意見	意見に対する市の考え方
3	<p>6ページ 課題3 (明朝体文字が原案) (前略) 一方で、「ほんもの体験」をプログラム化した体験教育旅行や、産地ツアー、ワーキングホリデー飯田など、この地域の生活体験や人的交流を魅力として集客できる成果も上げています。 旅行者の目的を考慮した地域の自然を利用した体験プログラムと温泉施設の組み合わせ、健康・環境・スポーツ・文化などの分野と連携した地域主導型旅行商品の開発、地域食材を使った新メニューづくりなど新たな魅力づくりが必要になっています。</p> <p>2行目 集客できる成果を上げています。 に続き * 以下追記 * 新たに小さな土地 一例:20坪ほどを分譲所有してもらい、心身健康教育される都会家族の皆さんが耕作で汗を出し自分の成果物を手にし、食す 達成感の中で 学習し、癒しの時間を味わって頂く。そのプロセス検討が地域住民、関係者と為され、満足のいくシステム構築をすれば、連泊を含みリニア往來の繰り返しが生まれる。しかも副産物として、お世話仕事も就いてくる。 <観光・マイファミリーファーム・プラン+マネージャーアシスト・システム> この項8ページ <新たな可能性にも>関連</p>	<p>法律(農地法)の規定により、農業経営者でない一般の人が農地を所有することはできませんが、市民農園や滞在型のクラインガルテン等、農地を借用して野菜などの栽培を楽しむ制度があり、当市でも制度を活用した農地利用を行っているところです。今後は、遊休農地の活用を踏まえる中で、都市住民の市民農園活用や滞在方法も検討して参ります。 ここでは、現状からみた課題を挙げていますので、原案のままとします。</p>
4	<p>6ページ 課題5 新たな観光資源 (明朝体文字が原案) 国の史跡指定を受けた恒川官衙遺跡、南アルプスユネスコエコパーク、名勝天龍峡を眺望する(仮称)天龍峡大橋、更にリニア中央新幹線の駅については、これからこの地域にとって新たな観光資源となることが期待されています。 これらについては、これから関係機関や周辺地域住民との協議により、それぞれの保存や活用を目的とした計画が策定され、整備内容等が決められていきますが、観光利用の方向性についても合わせて決めていく必要があります。</p> <p>3行目 期待されています。 に続き * 以下追記。 * リニアの建設過程から出る大量残土を市で受け入れ それを対岸ビュー・ロケーションの良い所の丘陵高台より扇状地造成(段々畑)に利用する。自然+造形美ある風光明媚な大型(日本一)の家庭菜園パーク(課題3記述)に仕上げる。都会家族が汗を出して自分で作った山菜を味わう、健康的な楽しい家族団欒広場を提供する。都会っ子の情操教育に役立つと思う。</p>	<p>ここでは、今後観光資源としての利活用が見込まれる新たな観光資源について記述しておりますので、原案のままとします。 課題 3でいただいた意見と同様に、市民農園(家庭菜園パーク)を活用した都市住民の滞在については、農業政策と併せて今後の参考とさせていただきます。</p>
5	<p>13ページ 施策の展開である「来訪者にわかりやすい誘客体制の整備」の項目 具体的イメージ (明朝体文字が原案) ・首都圏や中京圏からの日帰り客誘致の強化:温泉、食、アクティビティ 本来は、宿泊を伴うツアーづくりが必要だが、リニア中央新幹線による「移動時間短縮」のメリットを生かし、気軽に訪問できることを売りにした「日帰りツアー」づくり 例) ア. 日帰り登山、ハイキング(風越山・信濃路自然歩道・天龍峡遊歩道・御池山・野底山等) イ. 日帰り農業体験(産地ツアー、収穫体験)</p> <p>内容を変更 イ 個人所有してもらおう大型家庭菜園パーク(畑地を売る 或は 貸す)一例:リニアも見える造成の必要な富田城址公園の下り斜面辺りがある。現在荒廃した荒野で悲しい状態。 更に、広域の線上を捉え 東山・西山にも要る</p>	<p>個人所有してもらおう大型家庭菜園パークについては、課題3及び課題5に対していただいた意見同様に、都市住民の市民農園活用や滞在については、農業政策と併せて今後の参考とさせていただきます。</p>

No.	提出された意見	意見に対する市の考え方
6	<p>6ページ 課題4（明朝体文字が原案） 旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究（2010年）をみると、外国人旅行者の旅行消費は、宿泊施設サービスや飲食供給サービスに重きを置いており、旅客輸送サービスは縮小傾向となっています。</p> <p>国では「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」を決定し、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け訪日外国人旅行者数2,000万人を達成するべく、外国人旅行者誘致に向けた事業を推進しています。（後略）</p> <p>3行目 縮小傾向となっています。に続き * 以下追記。 通年を目標に市田柿をはじめ世界一おいしい果物をメインとした産地化勝負をしていく。それは持続的活動で高度栽培技術を常に研究する機関を併設して行われて成り立つ。若者の研究の場としてのメッカ醸成にも繋がると考えます。観光での狙い世界グルメ紀行旅行に満足に足る用意をしてオリンピックに臨みたい。相応しいフルーツパーラーのついたレストランが欲しい。</p>	<p>この地域の食の魅力向上には、農産物の充実が条件になります。果物を中心とした高度栽培技術を研究する機関の設置や6次産業化としての農家レストラン等については、今後の議論の参考とさせていただきます。</p> <p>ここでは、外国人旅行者に対する現状と今後受入れをしていくうえでの課題を挙げていますので、原案のままとします。</p>
7	<p>8ページ 飯田市新たな魅力の発見</p> <p>・伊那谷、特に南の飯田東西域は村部を除いて、天竜川沿いの丘の上を含む平地に住民の営みがある。＜下から上＞云い替えると＜川から山＞を見上げる視界ロケーションで観光視点を持ってきた経緯があります。</p> <p>そこで逆転の発想を持ち、一部西山に高台観光農園が存在しているが、トータル丘陵地から眼下をみるロケーション観光資源が発達しないで来ている。東山である久堅、龍江方面には随分潜在観光スポットがあり、地域ランドデザインと共にインフラ整備し観光財宝を磨き上げれば、軽井沢と違った周遊丘陵地里山観光が生まれると考えます。</p>	<p>天竜川右岸・左岸の丘陵地の高台からは、東には伊那山地・南アルプス、西には風越山・笠松山・高鳥屋山、更には摺古木山、安平路山などの中央アルプスの山々が眺望できるビューポイントがあります。</p> <p>天竜川左岸の下久堅、上久堅、龍江地区のほか市内に点在するビューポイントや起伏のある丘陵の地形を活用して、周遊型観光に結びつくような新たな取組を検討して参ります。</p>
8	<p>20ページ 飯田市の新たな魅力づくり 具体的イメージの例（明朝体文字が原案） ・環境分野など飯田市が取り組む先進事例等への視察旅行の受入れを推進し、合わせて市内観光施設等への誘導を促進</p> <p>以下追記 * 小型水力発電は現在取組まれていて期待のエネルギー創出です。南信州にもう一つバイオマス発電が必須のエコエネでの必要条件。CO2削減環境文化都市として名に恥じないよう荒れた山林、竹林の整備、観光として見れる里山形成をし、その廃材を燃料に集材してバイオマス発電をする。同時に出る熱源は観光向け通年栽培の高度化農業向けエネルギーとしての利用に向ける。バイオマス発電所建設は地域基本課題と捉えたい。バイオマスエネルギー利用の農業モデルとして、周遊観光コースにも加えていけると考えます。</p>	<p>ご指摘の環境分野も含めて、飯田市が進めて注目を浴びる取組については、積極的に視察を受け入れて、観光分野にも波及するよう誘導していきたいと考えています。</p> <p>また、これからは、飯田市の特徴的な取組についても、観光素材として捉えて誘客に結びつくよう進めていきます。</p>

No.	提出された意見	意見に対する市の考え方
9	<p>道路交通網が整備されることで、必ず避けて通れない批判的な考えの一つに「都市と同質化・均一化」してしまうことで、その地域らしさ(地域資源)が失われてしまうことにあります。そのためには「足下の宝を見つめ」「地域に根を下ろした」「地域に眠る資源を再発見し、それに新しい価値を創造する」事業が必要なのではないかと思索しております。</p> <p>私の事業構想案の一つとして「紡ぐ～TUMUGU～Ver.」を作成しているところです。(実は、元々の構想案がありました)このバージョンは事業コンセプトに「紡ぐ(TUMUGU)」を掲げ、『現在の気忙しい世知辛い日常を忘れ、「リフレッシュ」する空間を提供する』『成熟した社会にあって、少量生産で、質の高い、職人の手作りによる、他にないオリジナルな商品であることに価値を見出す人びとへ、飯田紬を素材とした商品を提供する』ことです。まだ構想案すらきちんとまとまっておりませんが、地域の歴史や伝統、生活文化や暮らし、住人の気質…こういったものを「紡ぐ」というコンセプトを明確に打ち出して、それをブランドコンセプトに据えて将来像をデザインしていただくことをご提案申し上げる次第です。「紡ぐ」をコンセプトに据えることで飯田紬に限らず、今ある地域資源の全てを巻き込んだ振興活動となると企図しております。</p>	<p>ご指摘のとおり、道路交通網が整備され、都市圏と繋がることで、「都市と同質化・均一化」してしまうことが懸念されています。</p> <p>飯田市が、都市圏とは違ったこの地域らしさを残すためには、天竜川と東西にアルプスを臨み、河川敷から氾濫原、丘陵地、里山、山岳へと繋がる多様な地形の中で息づいてきた、自然と景観、文化財や民俗芸能、行事などが今のライフスタイルになっていることを住民が再認識して、継承していくことが必要になります。</p> <p>ご指摘の飯田紬を含め、この地域に残る地場産業製品にも、その製品が生まれた背景や継承してきた伝統があります。外部からの評価や人的交流により、地域住民がその価値を知ることもあります。そして、自分の足下にある宝に目を向けて、地域の誇りや自信を見出すことが、地域の活力を生み出し、人材を育成することにつながります。少しでもこのような取組が地域で行われることを促し、支援して参りたいと考えています。</p>
10	<p>誘客数(交流人口)の目標を設定する。 人が訪れてくれなくてはビジョンも単なる絵空事である。 平成25年度飯田市の観光客統計は、約85万人(実数は?)であった。 この数字に対して、10年後には200万人を目標とする。 (延べ200万人の交流人口は、5,500余人の定住人口に換算される。)</p>	<p>産業振興審議会でも、数値目標の設定について意見が出されており、ロードマップ策定の中で検討していきます。</p>
11	<p>誘客200万人のニーズに応え得る観光商品を発掘、開発、企画し事業化する。 飯伊各市町村や近隣地域(2時間圏域等)の観光振興計画や潜在観光資源を集約調査し、連携ルート化発掘開発等について、キメ細やかな観光の商品化・企画プランを緻密に練り上げる。 観光消費額をアップするために、現状の課題と将来の戦略にチエやアイデアを… これらを俯瞰的に構想する上で、観光の産業連関図を作ると良いと思います。</p>	<p>リニア中央新幹線の駅と三遠南信自動車道の結節点として、飯田・下伊那地域、伊那路・木曾路広域観光エリア、三遠南信エリア、更にはリニア中央新幹線で結ばれる自治体など、今までよりも広いエリアでの広域観光ルートの発着点として、観光商品化を進める必要があると認識しています。</p> <p>観光消費を向上するための知恵やアイデアを出すなかで、産業関連図づくりなど今後検討する際の参考とさせていただきます。</p>
12	<p>観光振興に関わる組織・団体等の連携整備と強化 ①伊那路観光連盟との関係や情報ネット戦略についての記述があるとよい。</p>	<p>観光振興に関わる組織・団体等の連携強化については、必要であると認識しており、24ページ 広域観光の推進 具体的イメージとして上から2番目に ・近隣市町村や他県との広域連携(下伊那郡内の市町村、伊那路・木曾路広域観光連携会議、三遠南信伊勢志摩広域観光交流連携協議会での連携強化)としてご指摘の伊那路観光連盟を含む伊那路・木曾路広域観光連携会議との連携強化について記述しております。</p> <p>ここに続けて、連携団体のネットワークを利用した情報共有や情報発信体制の構築を追記します。</p>

No.	提出された意見	意見に対する市の考え方
13	<p>観光資源づくりとして、もっと「花」に着目したらどうですか。 例、大平一帯を山桜の名所にする作戦(吉野山のイメージ)</p>	<p>ご提案の「花」については、当市でも名桜鑑賞としてライトアップ等桜の観光には力を入れています。また、伊那路・木曾路広域観光連携会議で作成した長野県南信エリアの花めぐりガイドマップは好評を得ています。 今後も、市内の名桜を保存し観光利用を継続することができるよう支援し、新たに「花」を観光利用する取組についてもロードマップ策定の中で検討していきます。 20ページ 飯田市の新たな魅力づくりの具体的イメージに下記を追記します。 ・名桜の観光利用を継続して推進するとともに、桜以外の花を素材とした観光利用について検討</p>
14	<p>23ページの内容をもっと具体的に絞り込み、重点的に商品化する提案を打ち出す。</p>	<p>23ページの具体的イメージでは、ターゲットとなる客層に応じて、商品として活用できる特産物、農産物を提案したいと考えており、食の魅力を伝えられる可能性のあるものを広く例示しています。具体的な絞り込みや重点的に商品化することについては、ロードマップ策定の中で検討していきますので、ここでは原案のままとします。</p>
15	<p>飯田市観光事業戦略と言う視点から「飯田市観光振興ビジョン」を考察しますと、事業目的、事業目標が曖昧です。拝見すると様々なきめの細かい誘客イベントが行われていますが、いずれのイベントも観光客は横ばいか下降気味です。それぞれのイベントの事業目的と集客目標は明らかになっているのでしょうか。お客が来ないのは交通が不便だからとっていますが、それは責任転嫁ではないでしょうか。飯田市の獅舞いが参加する、台湾の新竹県が主催するお祭りには、100万人の観光客が集まります。人形フェスタは、何故数万人なのでしょう。観光客を増やしたいなら、どういう人を年間何人集客したいのか目標値を決めることです。飯田市で百万人の宿泊客が集う観光イベントが出来ますか。現状の宿泊施設ではムリでしょう。近年の観光の集客は、自然の観光もありますが、人々が集いともに何かを一緒に行って、楽しみと満足を得るイベント型集客が増えています。人形フェスタやりんごんがあります、規模が小さいです。</p>	<p>産業振興審議会でも、数値目標の設定について意見が出されており、ロードマップ策定の中で検討していきます。 ご指摘のイベントのあり方については、今開催しているイベントを発展させ、参加者や集客数を増やすために、検討する際の参考にさせていただきます。</p>
16	<p>拝見したところ、殆どの観光客は日本人ですが、台湾人をもっと積極的に勧誘しては如何でしょうか。台湾のお金持ちの関心事は、雪、温泉、美味しい果物特に桃、りんごは大好物です。台湾の都市と姉妹都市契約をし、定期的に双方で観光客の交流を小学生から年寄りまで一年を通して行い、毎月又は一月おきに、日台のイベントを行ってはいかかですか。観光だけでなく、製造業の皆様も日台の交流をもっと盛んにすれば、ビジネス機会も増加し、伊那谷の経済活性化に寄与します。台湾の皆様を集客するのであれば、彼らが好むスキー場や温泉場、食事のメニューから言葉の勉強、街中の表示など全てを見直す必要があります。台湾の皆様はアジアで日本を一番気に入ってくださる人々ですから、観光客としては、お勧めです。</p>	<p>現在、飯田市では自転車によるスポーツツーリズムを推進しておりますが、台湾の方々サイクリングに対して高い関心を持っていることに着目し、長野県国際観光推進室とともに現地の大規模な観光商談会に参加したり、各旅行代理店に訪問するなどの営業活動を積極的に行っており、今後もこれを継続していきます。 また、サイクリング以外にも台湾の方々に興味を持ってもらえる観光素材を研究し、それらの受け入れ態勢を整えながら誘致に取り組んで参ります。</p>

No.	提出された意見	意見に対する市の考え方
17	<p>国内の人々を飯田に集客したいのであれば、今ある伊那谷の習慣や文化を押し付けるのではなく、都会の人々が、伊那谷の自然に触れて、都会では出来ない喜びと体験が出来る観光スポットを創ってください。このビジョンで紹介されているイベントは、飯田の人々が考えて都会の人々に喜んでいただけたらと思って押し売りをしているイベントが多く、都会の人がこの谷で感動をもらい喜びが感じられる内容になっていないと感じます。</p> <p>観光業はサービス業です。お客さま有ってのサービス業です。お客様は何を伊那谷で見て感じたいのでしょうか。この調査から飯田市の魅力を作りなおしてはいかがでしょうか。</p>	<p>今後、この地域にはない新たな観光スポットづくりを検討する際の参考にさせていただきます。</p> <p>同時に、この地域が旅行先として選ばれるために、再度地域にあるものの再検証を行い、この地域の習慣や文化の中から、新たな切り口で活用できるものや観光資源として利用してこなかったものを探し、この地域の魅力として発信していけるよう取り組んで参ります。</p>
18	<p>p24 テレビドラマ・映画の誘致について（明朝体文字が原案） 効果的なプロモーションによる誘客の促進 の具体的イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント内容に応じた対象を明確にした情報発信による地域外からの誘客促進と映画やテレビドラマのロケーション撮影等の誘致 <p>いいだの観光振興を目指す上で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飯田」の知名度、来訪意向の向上(p5,p39より) ・市民の郷土愛の育成、ふるさと意識の醸成(p5より) ・住民自身がこの地域にあるものを見直すこと(p9より) <p>は欠かせません。これらのことを、最大限効果的に訴求できるのが、テレビドラマ・映画等のロケ誘致です。</p> <p>飯田にロケが来れば、全国の画面やスクリーンに飯田の風景や施設が映り、必然的に知名度が上がります。第三者からの評価が上がることにより市民の郷土愛やふるさと意識が向上します。来訪者も増えるかもしれません。また、カメラを通して見るいつもと違う地元の風景に、住民は地元を見直します。</p> <p>ただ、「望郷の鐘」のスタッフに意見を伺うと、「飯田は遠い」というのが正直な感想のようです。多忙な演者さんに東京から片道4時間かけて来てもらうのはスケジュール的にも厳しいということでした。しかし、平成39年にはリニア新幹線が開通します。今まで泊まらなければ出演できなかった演者さんが、日帰りでの自然豊かな信州・飯田にロケをしに来ることができるようになります。全国はもとより、全世界へと信州飯田のよさを画面に映し、アピールするチャンスなのです。リニア開通後に活動を開始しては遅いので、私は少しでも早く飯田にロケを誘致できる土壌を造り出していきたいです。</p>	<p>テレビドラマ・映画の誘致については、現在、フィルムコミッションの設置に向けた活動がされています。テレビドラマ・映画のロケ地として誘致するためには、ロケーションを受け入れる協力態勢づくりやエキストラとして出演可能な方の募集など、地域全体の盛り上がり不可欠です。リニア中央新幹線の開通に向けて、テレビドラマ・映画のロケーションを誘致できる土壌づくりに協力していきたいと考えています。</p>

No.	提出された意見	意見に対する市の考え方
19	<p>・「城下町飯田」の要素を加筆 観光振興を語る上で、歴史観光という要素は外せないものはずです。(P35より) しかし、今回の観光振興ビジョンには、歴史的に飯田が発展してきた根幹たりうる「城下町」ならびにその魅力訴求の記述が一切見当たりません。信州の南の玄関口として栄えたこの城下町の歴史を、軽視すべきではなく、放置していいものでもありません。 また、明治政府に疎まれ、徹底的に破壊され、さらには2度の大火に見舞われた城下町としての飯田は、その歴史自身が全国的にも特異な魅力を持ちます。その中でも今なお遺る城下町の遺構は、さらに観光資源としてとても魅力のあるものです。 ぜひとも、下記下線部を観光振興ビジョンに加筆し、さらなる「城下町飯田」の魅力訴求へと取り組んでいただきたいです。 P7 図中 まちなかエリア ・りんご並木 ・城下町飯田 p13 具体的イメージ エ,まちなかエリア散策(桜丸御門) p20 具体的イメージ ・飯田市美術博物館をスタート地点とした伊那谷の自然と文化と歴史をテーマにした学習、体験ルートづくり ・城下町飯田の歴史と食文化の魅力を詰め込んだ観光ルートづくり(桜丸御門、山伏丸跡からの眺望、三連蔵、和菓子、茶の湯) <意見> p16 具体的イメージ 入場制限について 数少ない現存の城門、桜丸御門周辺の図書館駐車場並びに屋根撤去、車入場制限を望みます。図書館の屋根により、景観が破壊され、道路脇から写真を撮るのにも屋根が写り込んでしまします。</p>	<p>ご提案の飯田市の城下町として要素については、下記のとおり追記します。 13ページ 具体的イメージ エ まちなかエリア散策(城下町飯田のなごり) 20ページ 具体的イメージ 飯田市美術博物館をスタート地点とした伊那谷の自然と文化と歴史をテーマにした学習、体験ルートづくり</p> <p>具体的な城下町飯田の観光ルートづくりの内容については、今後の観光プランづくりの際の参考とさせていただきます。</p> <p>桜丸御門周辺の入場制限についてですが、現在、桜丸御門には、飯田市中心図書館、県飯田合同庁舎が隣接されています。 ご指摘の図書館のエントランス部分の屋根ですが、将来的に図書館を改修することがあれば検討していきますが、現在は、屋根下のスペースを障害者用駐車場等入館者に必要なスペースとして利用されていますので、ご理解をいただきたいと思います。</p>
20	<p>プロモーションとそれ以外の「基盤づくり、内容の充実」への力配分、優先順位について 現在の市の観光振興の大きな課題の一つは、大部分の力(マンパワー・資金)を観光施設の管理・大イベント(TOJ他)・キャラバン等 プロモーション活動に費やし本質的な「基盤づくり(内容の充実)」に力を回せない所にあると考えています。 第4章 組織の役割の中にも記載されている通り「基盤づくり」は本来行政ではなく観光事業者が中心となって取り組むべきことではありますが、20年来の不況の継続、地方の過疎高齢化等によって事業者の余裕がなくなり、観光振興のネックとなっていて行政としていかに支えていこうかがポイントだと考えています。 同時に、基盤づくりは【多機能高付加価値の形成・景観修景・エコパークジオパークの活用・集客商品の提供・担い手の確保・物産振興等】本来かなり時間と手間を要します。 イベント、プロモーション以外のこれまで手薄であった各施策についてどのように力を配分していくのか「基盤づくり」について行政がどのように関わっていくのか触れられているといいと思いました。 個人的には、プロモーション・イベントを一部切り捨てても基盤づくりに取り組む時期であると考えています。</p>	<p>今後、観光振興ビジョンを実現するためのロードマップを策定するなかで、多様な主体がそれぞれどう関わりながら連携していくかも検討されます。 どの施策に注力して、どの主体が、どう役割分担を果たすかを検討するなかで、行政(飯田市)としても、優先順位を決めて、どう力配分して、どんな役割を果たしていくかについて併せて検討していきます。</p>